

【学習は、「分かった」と納得してからが本番である。】



例えば、大リーグのイチローのようにプレイしたい野球の大好きな少年がいるとする。彼は、テレビでイチローが打ったり投げたりするのを真剣に見て、「なるほど、ああやってバットをにぎるのか。どこに体重をかけているんだろう」と研究し、「ああ、分かった」と納得する。すると、少年はどうするだろうか。当然、自分でもやってみるだろう。イチローのまねをして、何度も繰り返し練習するだろう。そして、少年はその技術を身につけるにはランニングや筋力トレーニング、素振りが必要だと気づき、自分でも基礎体力作りに励むだろう。スポーツでは、身につけるべきことが「分かった」からといってもうすでに身につけているとは誰も思わない。まして、すぐに「できる」わけでないことは、誰もが知っている。

ところが、これが勉強になると、習得すべきことが「分かった」だけで、もう「できる」と思い込んでしまう人が多い。先生から説明を受け、例題が解かれるのを見て、「ああ、分かった」とそれを写し、解法を理解しただけで解けると思い込んでしまうのである。そして、それでおしまいという人が多い。しかし、本当は、「分かった」と解き方を納得してからが、習得の始まりである。何度も練習問題を解かなければ「できる」ようにはならない。それはスポーツと同じである。

「分かったと 思ってからの あと10題」

この言葉の大切さを「分かった」と思うだけでなく、是非心身に刻み込んでほしい。また、勉強でもスポーツと同様、基本的なことを1つ1つ習得した結果全体のレベルが上がるということも、同時に肝に銘じておいてほしい。

なお、例年春にはレベルの高い高校や大学を志望していたにもかかわらず、夏から秋、そして冬へと志望校に必要な学力レベルを下げて、最初とは全く別の学校を受験するケースが見られる。志望校調査のたびにウロウロと志望校を変更するのは決して良いことではない。中学生の成績は大きく変動しやすい。たとえ現在の学力で志望校への高校入学が困難に思えても、諦めないことである。最初に目指した「行きたい高校」を見据えながら、焦らず、しかし着実に練習問題を繰り返し解くことでものにしてほしい。特に中学3年生にとって2学期の定期テストは、内申とも直結する非常に重要な試験である。

気合いを入れて、がんばろう!!!

